

Title	昭和三十八年度卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 Vol.37, No.1 (1964. 6) ,p.112- 115
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640600-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

昭和三十九年一月三十一日(金)三田、一二一、一二二、二二五番教室においてそれぞれ西洋史専攻、国史専攻、東洋史専攻の卒業論文発表を行い、そのあと学生ホールにおいて卒業生送別会を行った。

昭和三十八年度卒業論文題目

- 西洋史専攻
青木 詔子 バグダッド鉄道の敷設をめぐる外交紛争についての一考察。
- 朝比奈鋭子 フロンティア学説の意義とその問題点。
- 浅沼 翠 ガスケル夫人の社会観。
- 藤田 真弓 ドイツ国防軍再建におけるゼークトの役割。
- 降旗 英子 南北戦争後におけるミシシッピ州についての一考察。
- 古村 悦子 イギリスのスエズ運河政策——デイスレーリーのスエズ運河株買収をめぐる——
- 林正 枝 帝政ローマ初期における婦人の地位——特に結婚を中心として——
- 日田 恵子 チェッコスロバキアの独立運動とマサリック。

- 日野原万里子 トーマス・アーノルドの教育理念——ヴィクトリア時代の理想的人間像——
- 平岡 暉子 ペーター大帝の経済政策——十九世紀における自由雇傭労働者との関連において——
- 広瀬 赫子 ペリクレス時代のアテナイ社会思潮におけるペリクレスとソフォクレス。
- 石井 紀子 重商主義時代におけるイギリス奴隷貿易に関する一考察。
- 川井 麗子 エドワード三世の羊毛政策に於ける議会と商人会の動向。
- 上村 巖 ベオウルフの史的考察——文化の伝播と受容の一形態として——
- 河内 園子 英国における宗教改革の特異性。
- 川前徳太郎 フランス人民戦線についての一考察。
- 北尾 妙子 近世初頭のロンドン商人階級について。
- 城戸 照子 近代トルコにおけるアルメニア問題についての一考察。
- 国原由起子 イギリス革命におけるレヴェエラズ運動。
- 松本 利子 奴隷廃止運動におけるギャリソン派の歴史的意義。
- 武藤 紀子 ギゾーの政治理念——ブルジョア擁護の意義とその限界——

中村 蓉子 アクンアトンの宗教改革失敗の原因について。
 西本 富 ユダヤナシヨナリズムの特異性——シオニズムをめぐって——
 西脇久美子 アテネにおける在留外人について。
 億田 敦子 サロン生活の史的意義——ルイ十五世治下における——
 大河内かよ ジョン・ブラウンの奴隷解放運動。
 大久保信子 ファイレンツェ市とサボナローラ。
 大西 明子 ミケランジェロとマニエリスム。
 齊藤宇倭子 アメリカ最初の大横断鉄道について——特にセントラル・パシフィック鉄道を中心として——
 坂口 公子 ポピュリスト運動の問題点。
 坂本 昌子 ナウマンと中欧理念。
 坂根 克子 ヒットラーの政治思想——特に戦争目的を中心——
 佐藤恵美子 フランス革命とイギリスの対仏外交。
 佐藤 昌子 ピットのカナダ政策。
 関原 京子 フローレンスにおけるコンミュニオン誕生についての一考察。
 篠原 郁子 ナポレオンに対する半島戦争の意義。
 須田 和子 一三八一年の農民一擧とその社会的背景。
 菅野 道子 十九世紀における反ユダヤ主義についての一考

彙 報

鈴木 道子 察。
 竹田 公子 セシルローズの対南阿植民地政策。
 武井 瑞穂 ロカルノ条約締結をめぐるイギリスの外交政策——ダブルノンの役割と理想——
 田卷 泰子 トランセンデンタリストとしてのラルフ・ウォード・エマーソン。
 田中 邦子 N.I.R.A. 政策と労働運動。
 築井真沙子 アサネ民主政治下における奴隷制度。
 渡辺 明子 コンスタンティヌスとキリスト教。
 山本 厚子 アメリカ史における社会進化論のもつ意義。
 山下 東子 アンドリュー・カーネギーの富に対する思想。
 国史専攻 アメリカ合衆国の禁酒令。
 天羽 利夫 土版・岩版の研究。
 藤木 洋子 縄文式時代の編物——網代底を中心として——
 片岡 鷹介 四国の石包丁。
 近藤喜美子 古代日本人の宗教。——「かみ」「たま」を中心として——
 益田 栄次 桜田門外の変。
 永井ふみ子 江戸時代の教育機関の近代化——松代藩を中心として——

小田倉咲子 人物埴輪に見られる服飾の考察。
佐藤多喜子 平安時代の寝殿造庭園。

須川 輝一 熊野権現の史的考察——速玉大社を中心として——

立花 正継 元寇とその兵法——日本兵法の問題点——

谷川仁和子 平安時代に於ける神泉苑の史的考察。

内田 信子 善阿弥作庭論。

横井 文雄 渤海国使の来朝について。

吉田 薫 飛鳥・奈良時代の染色——万葉集を中心として——

藤本 祐子 中江兆民の「三酔人経綸問答」に関する一考察。

舟越千枝子 公武合体論者山内容堂の動向に関する一考察。

不破 偕子 江戸時代に於ける女性の関所通過。

原田 和美 鎖国以前の日英交渉の研究。

本郷 良直 明治十四年の政変と大隈陰謀説。

石田 徹 ワッパ事件に関する一考察。

森村 陽子 水戸藩への密勅とその影響。

吉良 洋一 初期の開国論に関する一考察——本多利明の思想分析を通して——

水原志ま子 川路聖謨——長崎・下田の日露交渉を中心として——

長田メイ子 二宮專徳の仕法と社会的背景——分度を中心として——

成岡 徹 海援隊の活動に関する一考察。

小倉 道子 戦国家法について——特に六角義治式目を中心として——

小沢 肇子 お蔭参りについて。

大平 一 明治戊辰戦争期に於ける越後長岡藩——小千谷談判を中心として——

佐藤 敏一 信長の統一事業と仏教政策。

六戸 大三 尾張家御鷹場村の研究。

高松 好恵 茶道成立以前の茶事——茶の伝来より珠光に至る——

田中 眸美 日米修好通商条約の締結とタウンセント・ハリス。

若松 清 仙台藩の土地制度と安永の農村構造。

山地 靖子 幕末に於ける長崎海軍伝習——木村撰津守の日記を中心として——

吉川 正子 陸奥宗光による日英条約の改正。

東洋史専攻

三上 芳子 中国古代の琴瑟について。

仙頭 道 初期神僊説の性格について。

我那覇 清

嚴復の保守性について。

家島 彦一

イブン・ハウカルの研究

山口 良子

ジョン・ヘイの門戸開放宣言に関する一考察。

一、ヤークートの地理辞典にみるイブン・ハウカル。

寺内 洋光

スーフィズムの発達について。

二、「Sūrat al-Ard」より「フェールスの海」

佐野 滋

ヒンドゥー王国ヴィジャヤナガルの繁栄とその社会。

要説。

武藤 進

トゥグルク朝のムハマド王の治政。

石垣 顕

マルデイヴ群島とイブンバットタータ。

大学院修士課程卒業論文題目

西洋史専攻

風間 元治

アレクシス・ド・トックヴィルと民主政の理念。

下尾 良策

反ユダヤ主義の史的考察。

鈴木 幸子

十六世紀レスタール州の農村。

国史専攻

三木 雄介

阿波藩経済構造の研究。

犬塚富士夫

勸学院発生の諸原因。

東洋史専攻

高山 純

古代東アジアに於ける珞と耳栓。

渡辺 誠

東アジアに於ける抜歯風習の研究。

彙

報